

おおよまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成20年
9月号

通巻457号
毎月23日発行

(題字 矢追日聖)

発行日 平成20年9月23日
発行所 大倭出版局
〒631 0042 奈良市大倭町1の12
電話 (0742) 44 0015
印刷 大倭印刷株式会社
定価 1部 250円
年間購読料 3,000円(送料共)
振替口座 01050 6 67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



釈迦説法図 大阪府豊中市 森脇聖淳さん絵(文・4頁)

昭和38(1963)年9月23日 月次祭法話より

宗教改革を私の宿命として

法主 矢追 日聖 (満51歳)

朝晩めつきり涼しくなり、秋もいよいよ本格的になってまいりました。今日は大倭の月次祭でございます。明日は仏教の彼岸の中日に当たります。いつも申し上げておられますが、宗教というもの、神道であれ仏教であれ、これは問題ではないんです。仏教が日本の宗教になりきって、こうした時期に自分のご先祖を思い出して、伝統的な一つの宗教的行事として、お寺やお墓へ参るといことは、非常に結構な有り難いことであるんです。

自己の反省と修養

毎月、月次祭の前の晩には教修会を開いておられます。大倭一門の者が拜殿に集まりまして、大倭の宗教、言い換えれば大倭の神様の道というものを中心として、お互いに自己の反省とか修養について一時半頃まで話し合いました。それに加えて大倭主義というもの、大倭の宗教的な理念は、単なる雲の上における空論であるかどうかを研究する会でございます。

一ヶ月間を振り返ってみて、我々が日々生活してある中に大倭の摂理、教理がどのように生かされているか、大倭の教えを実際の生活に当てはめて、具体的な問題を引き出し、検討し合っていくんですね。

大倭におきまして今日より以上に宗教的な活動をしなければならぬ時機が今年あるいは来年、または再来年の昭和四

十年頃に接近してまいりました。だから遅くさいような話ですけれども、脚下照顧と申しますか、足元から修養していかなければならない。我々が現在まで体験してきた事柄を頭の中で整理しておるような形になるんです。

一心、大倭におる者はお互いに味はよく解っておりませぬけれども、それをばちばち理論的に整理する、これも教修会の一つ大きな役目であるんです。

霊の世界は実在する

それから昨日の昼間、大倭安宿苑に入っている人が九十歳の高齢で亡くなりまして——世間では結構な人や、お彼岸に死んだと言われるんですが——、今井苑長が外部での所用のため、晩の十時頃お出でになりました、大倭一門の者も寄って、棺前祭と申しますか、仏教ではお通夜と俗に言う一つの宗教的な祭典をしました。誰が亡くなった場合でも同じことなんです。夕べもそれが済みましたのは、もう三時を過ぎておりました。それでも今日も朝から皆仕事をしてくれておりますので、眠いだろつなあとその点は私も人間的に非常に感謝と同情をしておるわけなんです。

何故、我々は人が亡くなった場合に、如何なる事情があるかと、どんなに差し支えがあつたにしても、その晩は必ずお祈りをしてやるのか。それは単なる儀式としてやっておるんじゃないんです。人間の生きておるこの世界が現界で、それに対し目に見えないところの霊の世界というものが実在してるんです。これはまあ信じる者の世界がもしれませぬけれども、霊界というものは理屈を考へても、なければならぬ存在ですね。

昼と夜の関係において等、宇宙の仕組みは全て

相対的にできておるんです。そして即それは一つのものなんです。我々人間の場合においても、肉体があれば、心というものもあるんです。目に見えるもの、見えないものというように相反するような形をとっておりませぬけれども、即それは一対のものなんです。

今、現界におるかと思えば、また霊界即ち幽の世界において生活する。幽の世界におつたとすれば、またいつか現界に生まれてくる。これは裏表の関係にあります。現界において人生を全うし、そして霊の世界へ移って行く、いわば里帰りなんです。霊界の方が主体であつて、今生まれておるこの現界即ち現象界の方がかえつて影の形になっているんです。だから本当の故郷というものは、霊界にあるんですね。

「氣」の働きが根元

これはえらい断定的な言い方ですけども、地球であるかと色んな物質であるかと、宇宙の根元は、目に見えない一つの「氣」というものの働きによつてできてきておるんです。天体そのものの一番根元を探っていけば、これは霊なんです。物質も何にもないんですね。原子とか分子とかそんな問題じゃないんです。まだもつと細かいものなんです。そういうようなものから、色んな物質が変化して出てきてるんです。

そう考へていった場合に、我々も根元に遡ると霊魂が主体で、肉体が変化した一つの姿なんです。まあ六十になりや六十の顔するし、八十になれば八十のような顔になってくるし、時間に従つて変化していくように出来ておるんだから、これも仕方ないんです。

天寿を全うして、そして元の自分の故郷へお里

帰りして行く人を、現界に残されておる我々が最後の別れとして見送つてやる。そして霊の世界においても幸せに生活できるよう、誰が亡くなった場合でも、本当に真面目な気持ちにおいて祈つてやらなきやいけない。だから前の晩にはお通夜というものをしておるんです。

その点、苑長も霊界のことはよく解っておりませぬから、いかなる事情があつたにしても今日まで欠かしたことはないと思つたんですね、私の記憶の範囲においては。晩の十時になつても十一時になつても出てきてくれる、そうした一つの真心に対してでも私は非常に嬉しく思つたんです。

それはやはり人間のことでですから、うるさい日も頭の重たい日も、どんな日もあります。けれども、大倭において色々体験されて、霊界の実在というものを信じておるからこそ、如何なることがあつてもお通夜を勤めるといふ気持ちで、そうした真面目な動きが出てくるんだと思つたんです。

皆さんもお彼岸さんには、ご先祖を思い出し、お墓やお寺へ参る。あるいは坊さんを呼んで仏壇の前で拜んでもらうといふことをやっておられると思つたんです。これは非常にいいことなんです。霊界の実在を信じないで、ただ世間がするから付き合ひでやつておるような薄っぺらなものであつたら困るんです。

それでは霊界の実在はどつすれば知れるかと云う人がありますけれども、感受性の強い人は人から教えられなくても自分で解るんですね。自分が全然考へていなくても、自分で解つてくるような人もあるんです。若い者にはちよつと理解できないかも知れませぬけれども、日本だけやなしに支那やインドに行つても、あるいはフランス・英国であるかと、霊界の実在といふことを信じ、そうした体験を積んでおる人類は世界中にたくさんあ

るんです。

心靈研究とか心靈科学ということを喋っておれば、頭どうかしてるんじゃないか、迷信だと言う人が多いです。けれども靈界を知ることが必要なんです。と言って、知りたくても知ることのできない人もたくさんあるんです。

明日、十四、五人程見えるだろうと思います、大倭で精神統一ということですか、心身統一の修養会をやるうやないかということになってるんです。英国の靈能者であるコックス女史も多分参加されるだろうと思います。外国にもなかなか靈界のことについて明るい方もおられるんですね。国境というものは靈の世界にはないんですから、どこの民族であろうと靈の根本というものは一元的なものなんです。

そうした根元から色々変化の姿でもって人類になって、日本人だとか、アメリカ人だとか、インド人だとか、生まれた土地とか環境において民族的な相違が出てはきております。けれども靈の世界から見た場合には、そんなもの問題ではないんです。靈界ということがよく解っておる人には宗教の宗派、教派ということは問題ではないし、また民族の対立とか、国家的な意識というものも全然なくなってくるのはもう事実なんです。

民族や国の相違は現象界だけ

ただ靈の世界には家族のようなグループはまあ色々あります。けれども我々現象界において見るような民族の相違、あるいは国の相違、そうしたものは全然ないんです。宗教にしても大倭教と言っているが、これは単なる一つの名称なんです。私は矢追日聖、片方に青山日元という名前があるようにこれも単なる名称なんです。

案外同じ民族である日本人に、私がこういう話をしてもなかなか理解できないんですよ。そうした意見に対しては、その通りであると、誰も反対してはくれんです。ところが口先だけなんです。本当にそこまでの心境に達しておる人は見当たらない。なかつた訳なんです。言い換えれば、一つの仏教宗派の管長さんや新興宗教の教祖さんが集まった場合に宗派、教派の意識を抜ける人はいないんです。

本当に皆が、宗派、教派を抜ける気持になつた場合、腹を割つた手の繋ぎ方、一つの宗教的な活動の仕方というものが自ずから出てくるはずなんです。しかし、いざ仕事にかつた場合には、実際にものすこい溝があり、気持において一つの壁があるんですね。日本の宗教家というのは、何故このくらい肝つ玉の小さい島国根性を出すのかと、情けない経験を今日までたくさん持っていたんです。

それが、偶然にもコックス女史と初めてここで会つたんです。ズバリとそんな話をした時、相手の受けてくれる感じが、「自分も今日までそういうふうないき方をして、実に同感だ」と、はつきりした気持が表われているんです。これには驚きましてね、何も英国人やらから褒められるんじゃないんですよ。そういうような心境の宗教家が日本にもおつてほしい。靈能があるうとなかろうと問題じゃないんですよ。そういう精神状態の人が私は望ましい。

日本において靈能者であるとか、やれ神さんが見えるとか、神さんと話ができるという階級の人たちが、お互い腹割って話した時には、案外、いじましい根性の持ち主が多いんですよ。これまた情けない。

世界が手を繋ぐ日

逆に、私は生まれた時から一つの宗教改革をしなければならぬ宿命で、この世の中に送り出されたんだという自覚が強くなったわけなんです。誰もやるものがない、だから自分の使命として俺がやるんだと。これはえらい天狗なかも知れませんが、同じような心境の者が日本だけじゃなしに、世界からお互い手を繋いで、同じ一つの線に向かつて宗教的な改革をやつていこうじゃないかと。いわゆる宿世、前の世からの縁のあるものが結ばれ集まつて、宗派、教派を全然問題にしないで、差別的な民族・国家の意識なくして、本当に靈界を中心とした、言い換えれば神の心に沿つた、全世界の平和ということを目指して、一緒に活動できる日がそろそろ近づいたと私は思っているんです。

まずコックスさんが大倭へ来てくれるということも、そうした神の計画というものの、靈界の仕組みが現界に頭を持ち上げてきたんじゃないかと、これは私の想像なんです。今日まで純宗教的に歩んでおる大倭のいき方というものを皆さん方も、よく認識してほしいです。形ばかりにとらわれ、内容の空っぽな宗教がたくさんあるんですね。コックスさんは日本だけじゃなく、世界中ほとんどがそうなんだと話していました。それであればなおさらつまらんです。何とかしなきゃね。そこで現在、心ある者が現界に生まれ、そして宗教あるいは何かそういう所に首を突っ込んで、お互いに縁があつてこういう仕事をしなきゃならない位置におつて思うんです。言葉は通じなくても、そこにおいて心と心の通ずる面があるんですね。いわゆる以心伝心というものなんです。

だから皆さん方も、どんぐりの背比べのような天理教の信者である、あるいは創価学会の信者である、いや私は大倭教の信者であるというような小さい気持を持ってもらったら困るんです。

信者に名簿は不要

大倭教は宗教法人でございませうけれども、信者名簿は作っておりません。文部省からそうした備え付けの書類を見せよと言われます。だから信者名簿と表に書いて、一応書類の形は拵えておりませう。けれど中は書いておらないんです。

ということとは、大倭が本当の宗教だと思つて、信仰を続けておられる方は信者であると言えませうが、だからと言つて何も、我々の方から誰と誰が大倭の信者であると名簿に記載することは、宗教的には必要ないんです。

大倭の宗教を信する者は一宗に拘らないで、現代の日本あるいはもつと大きく全世界が住みやすい社会を作るために神様に手を合わせ、また自己の反省もし、時には懺悔もし、修養を続けなければならぬんです。今のような殺伐たる、いつ何処で命が飛ぶか分からないような危険な世の中ではなく、もう少し和やかに潤いのある、本当に現世楽土と言いますか、楽しんで仕事もでき、あまり心配もなく、一生を送るといふような社会にならなさいいけないんです。

勿論、平たく言えば政治も目的はそつてであらうと思ひます。また各家庭においても、経済的・精神的に豊かに一生を送るうやないかという一つの目標のもとに、汗水流して働いておるんです。それを大きく世界に持つて行つても理屈は同じことなんです。

だから政治であらうと教育であらうと、科学で

あらうと学問であらうと宗教であらうと全てのものが、平和な世界を建設していくという目標の線に向かつて進んでくれれば非常に結構なんです。ところが現在は、およそ我々の理想とは相反しておるように見受けるんです。

我々が希望する最後の平和ということを目標としていくのには、そういう人間がたくさんいなきやいけない。目標はお互い個人個人が持つことによつてその方向に進むんです。

目標を示してそれに向かつて歩ませる力を与えるのが、宗教であるんですね。その力というものは何宗、何教とかじゃないんです。素直に宗教なんです。大倭は、そういう意味合いにおいての本当の宗教でありますから、ちよつと高級すぎて難しいかもしれない。だからそれに到達するように一歩一歩努力して欲しいと思うんです。

心身統一の眞の目的

明日やる心身統一も、やはりそういうような世界を目指して、自分の霊を浄化し向上を図つていく。そして人間の理性を超越した世界から色々な指示を受ける。それによつて自分の身体も心も合致した行動をとつていくというようなものが目的であらうと私は信じているんです。

ただ霊界のことがよく解るとか見えるとか、あるいは祈禱して人の病気を治すというような、小さい意味においての拝み屋養成のようなことではつまらないんです。まあ世間ではそういうようなこともやっておりますけれども、それでは神の大きな慈悲の心に背きます。

大倭における心身統一は、自分というものを浄化し、霊界からの指示を受け、また自分の理性も通し、そしてこれでもう絶対狂いがないという信

念の強い人間を作っていく。それをただ観念的な問題で終わらせず宗教によつて世界に向かつて邁進し、人々をも導いていく。そういう目的でなければならぬんです。

今日まであまりこうしたことは話しませんでしたけれども、これから大倭のいき方は、積極的に活動を開始しようとするので、皆さん方にもそうした心の準備をしてほしい。大倭はいい方に変化していくと思ひます。その点は一つ人間的な楽しみを持つて剛情な信仰を続けてほしいと願うんです。(文責・編集部)

表紙絵によせて

大阪府豊中市 森脇 聖淳
平成七年念願のインドへ旅行した。
デリーに降り立つと、この空気が、この臭いかつて私が幼い頃体感したそのものでした。

ガンジス河での沐浴とお釈迦さんの足跡を訪ねるのが旅の目的でした。ベナレスで太陽が顔を出す時、沐浴しました。ガンジス河は黄金色に輝き、長年の私の心のあかを洗い流してくれました。

身も心も爽快になった私が訪れたのは、サルナートです。ここはお釈迦さんが悟りを得たのち、始めて説法された場所です。

そこで日本人僧侶、後藤恵照さんと出逢いがありました。彼は1979年インドに渡り、「全ての子供に学びの喜びを」ということで、無料学校を開設された。今で言うインドのごくせんだ!? 帰国後何度か手紙のやりとりをさせて頂いた。

出逢いから十年後、数十年ぶりに墓参りに帰つた彼と新大阪で再会することが出来ました。

作品『釈迦説法図』はインド旅行後の平成11年に制作したものです。

『聖徳法主日聖さん』の在りし日を偲ばせる作品となつたかも?(サイズ 42cm x 69cm)

特集 私と戦争 (中)

軍隊時代を回顧して(後)

茂毛露園 安田富輔(85歳)談

原爆投下

昭和二十年八月、広島に原爆が落ちて三十分後憲兵司令部に暗号電報が入り私が解読をしました。「広島に新型爆弾投下され被害甚大なり」。日本の軍人というのは負けず嫌いだから被害が甚大でもいつも被害軽少と来るので信用できない。こちらから、具体的に数字を出せと言っていました。それが被害甚大と初めて来たので司令部は大騒ぎになり、次々と入って来る電報からも、広島市全域で全滅に近い様子が窺われました。

六日の午後、東京帝大の仁科博士に照会を出して来てもらい、原子爆弾であることが判明した。長崎に原爆が投下された九日の深夜二時三十分、御前会議で陛下が終戦を決断され、翌日の朝トップに我々のところにニュースが入って来たんです。「終戦の準備せよ」ということでした。

近衛師団の反乱。そして終戦

今、大河ドラマで篤姫をやっているでしょ。冒頭にいつも竹橋が出て来ます。昔は宮城へ向かって竹橋を渡ると大奥があったところであり、そこに戦時中は近衛師団が入っていたんです。逆に宮城から竹橋を出ると四階建ての司令部がありました。終戦の前日、夜中に非常呼集が掛かり司令部に向かいました。上官である陸軍大尉から、「宮城

内で近衛師団が反乱を起こした。詳細は不明であるが、いざという場合に備え我々も此処で待機する。召集が掛かると直ちに宮城内に出勤する」と。拳銃二挺に銃弾を込め待機しました。朝六時、反乱は収まり解散となりました。この日の詳細を知ったのは随分と時間が経ってからのことです。八月十五日正午、憲兵司令部の廊下に全員並んで玉音放送を聞きました。悲嘆にくれたひと時であり、一番嬉しい日でもありました。戦争は終わったんだ、ようやく世界中が平和になると。

五年前の銀座、五年後の銀座

その日の夜、敗戦を不満としてどこで何が起るか分からないので、東京市内の治安状況を見るため手分けして見回ることになりました。

私は一人銀座へ出ましてね、昭和十五年が紀元二六〇〇年で、花電車が出て沸きにわいた華やかな時代からたった五年、人影が全く無く焼け野原となっていました。街灯も消えたまま周辺は静まり返り、月光が煌々と廃墟となった町を浮き上がらせていました。有為転変は世の習いというかあまりの変遷に呆然たる思いでした。

軍隊に入る前、昭和十五年、大阪商業学校五年生の頃、紀元二六〇〇年の奉祝式典が宮城前広場であり、私も大阪代表の一人に選ばれ上京しました。

十一月十日式典のあった夜、引率の先生のお供をして初めて銀座に出たんです。人が溢れ、路面電車が走っていた。歩道上には夜店がずらりと並んでいて、銀座四丁目の角にある服部時計店や三越百貨店近くは人の渦で身動きできない状況でした。圧巻は路面上を走る花電車。電車の外面一杯に小さな電球で花の形のイルミネーションを満艦飾で走行するわけです。おのぼりさんの私たちは

あの時夜遅くまで銀座をうろろしていました。

疎開児童に助けられる。そして復員

昭和二十年九月一日、出張を命じられトラックで長野県へ無線受信機を取りに行き、帰りに上諏訪の温泉に泊ったんです。温泉で泊るなんて稀有な事だったので、のんびりとしていたところ小学校の先生が、戦争も終わったので東京からの疎開児童を早く帰してあげたい、車に乗せてやってもえないうか、と言ったのでしたので了解しました。

翌日、百人ほど連れて来られました。子供だからなんとか全員乗せて出発しました。軍隊の大型トラックは一台で百人くらいは軽く乗ります。

大菩薩峠を越えていますとアメリカの憲兵が居ました。敬礼しましてね、「日本の憲兵です、こんにちには」と言ったらね、向こうも「こんにちには」と言ってる。どうぞバスだと。それは私たちが子供を一杯積んでいるから揉め事無しで通過できたと思います。小学生を助けたことでこちらも助かることとなりました。

終戦後、山の中で合つて、むこうも憲兵、こちらも憲兵、私もまだ軍刀吊って拳銃二挺持つての完全武装でしたから一戦あってもおかしくない状況です。何がどこで起こるか分からないんです。そして、新宿で小学生も学校の先生も全員降ろして「さよなら」と別れました。

十月中旬に復員。元の就職先に戻り、夜は大学にも入り直しました。私の生命は戦時中に無くなっていたはずだから後は全部余生だと感じていました。これからは思う存分勉強が出来る、寝る間を惜しんで学びました。

今も少年に帰れるならパイロットになりたいですね。飛行機から外を眺めるのが私は大好きなんです。 —聞き手 李章根—

逍遙遊を求めて……

「^え回向」の巻

伊藤 克夫

ミヒヤエル・エンデの『モモ』は児童文学の傑作だと思ふ。物語は未来の時代、人々が時間を節約し、時間貯蓄銀行に時間を預け、すべての日常生活を無駄なく効率的に行うようになり、時間と一緒に生きる意味まで見失ってしまう。そこに、モモという少女が、灰色の男たちから、時間を取り戻すというあらずし。

時間が発明されたのが、いつかは知らないがすべての人に与えられている。大きく掴めば、時間と共に人は赤ん坊からお年寄りへと、その風貌から人生観まで随分と変化していく。小さく時間を割れば、その濃淡のなかで、時間はいろんなことを教え、考えさせてくれる。

例えば、山際淳司というノンフィクションライターが書いた文章に「江夏の21球」という非常におもしろい文章がある。野球の好きな方で、江夏豊というピッチャーに興味のあった方ならご存じかもしれない。1979年の日本シリーズ、近鉄バファローズ対広島東洋カープの最終戦、7回からマウンドに上がった江夏が試合を終了させるまでに21球の球を投げるのだが、その1球、1球の心理状態が描かれている。特に19球目に投げたボールが近鉄の打者、石渡のスライズを外したカープボールが、バッターのバットをかいいくぐるのが描写される様は圧巻だ。打者がスライズのごさをするのが江夏の目に入ったのは球をカープの握りで握った手が離される寸前だった。それでも江夏は前後の流れや時間を小間割させたスローモーションの小間で、意識的にスツポ抜け(ウエ

ストボール)に切り替えた。

武道では「先をとる」とよく表現されるが、まさに江夏はコンマ何秒か先をとったのだと思ふ。甲野善紀さんは「運命は必然でもあり、なおかつ偶然(自由)である」とどこかで語っていた。それはコンマ何秒かでも、今ある時間の向こう側へすり抜けたものが元の時間に戻ってきたときには勝っていた、必然のものを偶然に変えてしまった」ということなんだろうと思ふ。

「先生」という文字は先に生まれると書くように、同一時間軸で生徒よりも先に行って、そのコンマ何秒か後に、帰って来ている人の事を指す言葉だと思ふ。先生自身は、時間の先に行ったということを意識していないかもしれない。教わる生徒がもし、その先生に訳もなく、惹きつけられてしまふとしたら、その先生は生徒のいまだ知らない、別世界なものを知っているといえる。

今の時代で時間の先について本源的なものを知り、その後、「いま」に帰ってきた人たちはどんな本源的な言葉を発するのだろうか。その人たちはもしかすると、『モモ』のように風変わりな格好をした少女かもしれないし、「ベツポ」のような道路掃除夫、或いは「ジジ」のような観光ガイドかもしれない。

人が亡くなる寸前に、さきに往って待っているよ」という言葉が発せられるのは、ひよっとすると、「先をとる」ということと近いのかも知れない。法主さんの文章を読んでいると、しばしば、「回向」という言葉がでてくる。回向という言葉は先祖と子孫との繋がり、目にも見えないものを含めて、しっかりとあるということだと、僕は理解している。おおやまと新聞で触れる法主さんの言葉に僕らが惹きつけられるのは、法主さん自身が、人生の「先をいった」方だったからだろうと

思ふ。

回向と霊がどのように結びつくのか、興味があつたので、閑話休題。手元の辞典を調べてみた。「霊」の語源は、「霊」と「巫」の組み合わせからなり、雨乞いのために、U(サイ)。神への祈りの文である祝詞を入れる器の形)を3つ並べて祈ることをいい、巫はその雨乞いをする巫女。霊は雨乞いの儀礼のことをいったそだ。『常用字解』(白川静著)。雨が降るといふ、未だ起きていない事を現実にするための儀式に霊というものが強く関わっていたということだろう。

また、西洋の語源では、転生(リインカーネーション)、鎮魂(レクイエム)の語句との関連性から「再帰する」という意味合いがあるそだ。お盆や彼岸の日に、「ご先祖の霊が還って来たとき、それを迎える家族が仲良くしているのを見て安心して、また、霊はあちらの世界へ戻っていく。

話は「江夏の21球」に戻って、何とか締めくくりたい。スポーツで名を成した人たちが、時々、賭博で捕まるところにスポーツと賭博の関連性が現われている。僕自身も、太陽を象徴する12という数字よりも、月を象徴する13というギャンブル性の強い数字(古代ギリシャ時代に12進法をもとに太陽暦が作られる。13という数字は割り切れる素数がないためにタブーとされるが、トランプカード等に利用される)を好む。偶然に身を任せたり、偶然の中に意味を汲み取ったりすることで、自由を感じたり、人生に納得したりすることもよくある。

かつて、恨み憎んだ人と、邪気なく接することがあり得るように、「あーすれば、こうなる」というように人の有する時間は割り切れる数字ばかりでは成り立っていない。晴れる日もあれば、雨の日もある。できれば、上を向いて歩こう。

寸 莎

第81回

中 村 勝 彦 さん

わたしの羅針盤

中村勝彦さんは、すつきりとした表情で生い立ちを語ってくれた。

男三人兄弟の長男として昭和二十九年三重県四日市市富州原で生まれた。「海に近かったせい夕方方になると隣近所の人が集まって将棋をしたり、おばあさん達は腰巻一つでおっぱいをべろーんと出して風呂上りに外に出て来るんですよ。傍らで私は友達の後について遊んでいました」昭和三十四年九月勝彦さん五歳の時、死者約五千人を出した伊勢湾台風に遭遇。祖母しづさんに助けられ、たが水は二mにも達していた。

実家は商売好きの祖父吉松さんから始めた酒屋を父親勇さん母親多津子さんが平成十一年まで七十三年間守り通した。身近でいつ寝ているのか分からないくらい働いている両親の姿に、「これで食べさせてもらって



いる」という感謝の念がいつも勝彦さんを支えた。両親からは、「ある方向へ引つ張られたり命令される事もなく、やりたいならやりなさいと好きなようにやらせてもらった」。

中学生時代は、努力と結果が報われ、逆に高校は受験競争と学園紛争が激しく劣等感にさいなまれた。

早稲田大学法学部に入学したが法律の勉強は頭に入らず、文学哲学書を読む。教員になり千葉の県立高校で倫理社会を九年教える事となった。ところが学校社会に違和感がつのりだす。「管理教育に団体我。自分の教えている事は本当に生徒の生きる力になっているのか」葛藤した。

昭和五十四年暮れ、見田宗介さんの講座の受講生とインドに行く。「貧富の差を突きつけられ、瞬間が強烈な経験で新鮮でした」竹内敏晴演劇研究所にも通い人間を身体から見る視点に関心を持った。

昭和五十五年の冬、見田さんの著書『気流の鳴る音』で大倭を知り、見田さんの紹介で石垣さんを訪ねたのが大倭との最初の出会いである。その後、第一回野草塾に参加。「法主さんの全身からシャワー状に白い糸のようなものがぶわぁーと出ているのが見えたんです。こんな人がいるのか」法主さんとの初対面だった。

三十一歳で国際鍼灸専門学校の間に通い免許取得。教員を退職した。平成元年三重に帰り、天南鍼灸院を開業。「安定生活から一転して日銭を稼ぐような生活でしょ。経験のない不安感でした。家内も子供もよく付いて来てくれたと思います」。

勝彦さんは奥さんを同志だという。そんな中、大倭の新聞を読むと何となくまた違う味を感じ、それに惹かれて平成元年禊会に出かけた。

法主さんは、「そうが、ええ仕事してるな。先祖さんもこんな仕事しとつたんやな」と言われたが先祖は酒屋であり、その前は水呑百姓だと言っているが、「いや千年位前や、まじめにやらなあかな。鍼灸も経験積まんと分からんよ」と話された。実情に変化はないが、「心が安定したんです。僕はそれを言葉やと思っとう。法主さんが言葉に乗せてちよつと手を貸してくれたんかなと受け取った。難しい勉強しても不安は消え

ない、心の病気にもなる。その時に力になるのが本当の意味での宗教の力やと思う。言葉を法主さんが発してくれてやっと僕はキャッチできたというか生活していく最初のエンジンをお願いたんです」。

それまでの、コミュニケーションとしての魅力ではなく、「じかに大倭が発するものに興味を持ったんです」。

今の関心事は、「人間として向上するにはどうしたらいいか。それを職業を通して生かし、家族や両親ひいては社会にも返していきたい」。

平成十二年患者さんのために「居宅介護支援事業所」を立ち上げ、平成十四年訪問介護の事業所を開設。

「生活全部が見えるので勉強になります。人間にとって何が一番大切であり何を大切にしておられるのか。自分の老後も考えられる。政治行政も分かってくる。いろんな問題があつて大変なんですけど面白いですね」

大きくは制度に小さくは一人一人に向き合う。「判断に迷った時、今の私にとって一番役に立っているのが『相對即一体の理』です。自分なりに捉えたその原理を自分のフィールドの中で検証していきたい。この原理は万人に対する法主さんからの贈り物やと思う。惜しげもなく伝え下さるすこさ。相對即一体の理は私の羅針盤です」(聞き手「李章根

あじさい日誌

第300回大倭会文化行事 秋の一泊旅行のご案内

一能登半島に海の神を訪ねる一

皆さん、300回記念旅行です。お誘い合わせて参加ください。

- 月 日：平成20年10月26日(日)～27日(月)
- 行き先：能登半島=和倉・輪島方面
(気比神宮・千里浜海岸・輪島朝市・金沢など)
- お泊り：和倉温泉 ホテル海望
七尾市和倉温泉 TEL 0767-62-1515
- 定員：40名程度
- 費用：27,000円
- 締切：10月8日までに申し込みください
- 問合せ：世話人 湯浅 芳郎
TEL 090-6987-5847

第20回大倭会文化講演会

(共催：NPO法人むすびの家)

日時：平成20年11月8日(土)

午後2時より

場所：大倭紫陽花邑 拝殿
近鉄学園前南口より赤鷹山行きバスで国際ゴルフ場下車、徒歩すぐ

講師：神谷文義さん

タイトル：交流(むすび)の家と私

講師プロフィール 1929年(昭和4年)愛知県半田生まれ。海軍の航空機製造会社に入社。B29による集中爆撃、東南海地震を体験する。昭和21年ハンセン病と診断され、昭和23年19歳、国により岡山県瀬戸内市にある国立療養所長島愛生園に強制隔離された。

※講演会終了後、大倭会館にて懇親会があります。(参加費用1,000円)

■問合せ：TEL 0742-44-0015 (大倭会)
TEL 0742-44-0776 (むすびの家)

田んぼ通信

記録的な夏の暑さと天候不順に
もめげず稲はとて元気です。
収穫の秋、どうぞ皆さままふるつ
てご参加下さい。

10月5日(日)
午前 9:30～

*服装

長袖・長ズボン・長靴。帽子とタオルは各自用意下さい。軍手と鎌は用意してあります。

*昼食・飲み物

ご用意します。(持込み歓迎)

連絡先:TEL 0742-41-4615
(玄徳院)

稲刈りと棹掛け

お・詫・び
エスティームライフ学園前の新館長さんは渡部徳博さんというお名前です。先月号「あじさい日誌」で、紛らわしい記載となりました。

8月23日 大倭大本宮月次祭。
龍雄さん(兵庫県三木市)がお祭とは知らずに来島、一泊して直会にも参加。その経験で自信を得て社会復帰、工務店を営むようになったこと等、語ってくれました。

9月6日 大倭神宮月次祭。
夜、大倭会館で邑倭の会。
9月7日 宿禰館の解体を前に、編集部と有志で古い「大倭新聞」や「おおやまと」を拝殿下倉庫に移しました。
夜、大倭会館で「弥栄おどり」の慰勞会。

8月29日 外出支援で、東老春の家のお楽しみコンサートへ。投句箱より「満月を窓に招いて良夜かな」
俳句の風物 上田森彦(98歳) 菊を売るその小車と行き並

10月6日(日) 午後2時より大倭神宮にて。
* 大倭会主催第四七八回禊会
10月12日(日) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。(11月の禊会は文化講演会となります)

10月15日(水) 午後2時より大倭神宮にて。
* 月次祭(大倭神宮)
10月23日(木) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

8月15日 大倭教立教開宣記念日で、午前11時より大倭神宮にて祭典。午後1時半から東方の碑前で「東方瑞祥」記念の祭典。2時より拝殿で東光大祭、奥津斎庭で祖霊祭。夕方、大倭会館で直会。お陰さまで順調に運びましたが、8月15日と旧7月15日が重なったのは初めてです。交流の家建設時、愛生園から参加、大工仕事に活躍した西原

8月30日 大倭会主催「弥栄おどり」。前夜来の大雨で心配しましたが、朝8時頃から準備は開始。昼頃、雨も止み会場設営。夕方から模擬店。「音丸会」一行の首頭で、今までに無い位の人出となり、大盛況でした。8月31日 朝8時から10時半頃まで「弥栄おどり」の後片付け。皆さん連日お疲れ様。
このところちよっと涼しく早速、長袖着用と季節の変化に敏感な昇ちゃんです。

8月22日 (デイサービス)夏まつりでヨーヨーつり、金魚すくい、射的、かき氷をしました。9月4日 奈良県老人福祉大会に2名の住死者が参加。(八重垣園)
8月17日 「ゲゲゲの鬼太郎」を、30名程が鑑賞しました。(須加宮寮)
8月17日 「ゲゲゲの鬼太郎」を、30名程が鑑賞しました。

8月17日 (ささゆりユニット・こすもすユニット) ネイルアートに挑戦。
8月17日 (茂毛路園)
菊を売るその小車と行き並ぶ
前に行く花屋の小車を覗くと爽やかに匂う菊の花がいっぱい。つい追い越さずに、並んで歩く。菊の香は郷愁をそよる。花舗を溢る菊の香抱くアーケード 森彦

あんない

第14回あじさいの箱チャリティーサークル
作品展
■日 時：10月18日(土)～19日(日)
午前10時～午後4時
※最終日は午後3時半まで
■場 所：大倭会館
■教室名：書道・てまり・押し絵・編み物・あぢさみ旬会……
■お問合せ：溝口ツヤ子 電話 0742-47-6276